



聞いてよ！
伝次郎

記事を通じて
伝わる「思い」

強い心で働く原発作業員

鈴木 翔大君 (会津若松市・若松四中2年)

南相馬市から避難している高校生の記事を読んだ。深刻な状況が続く東京電力福島第一原発でお父さんが働いているという。このお父さんは、被ばくの恐怖と家族から離れて暮らす寂しさを我慢している強い人だと感じた。僕は雨が降っただけでも放射能が気になってしまう。

原発で作業を行っている人たちはすごい勇氣だと思う。また、その人たちを待っている家族の我慢も大変だろう。家族が避難しなくてはならないときにお父さんがいない。それだけでもどれだけ大変なことだろう。僕は長男だ。もしお父さんが家族と離れて暮らすことになったら、僕が一家の大黒柱だ。こんなことを考えただけでも不安になってしまう。

原発で作業をしている人たちは多くのことを我慢し、僕たちが恐れる放射線に立ち向かっている。家族にとっても僕たちにとっても英雄だ。



東京電力福島第一原発の事故を一日も早く収束させようと、多くの人たちが現場で作業を続けています。新聞記事を通じて、作業員だけでなく家族にも思いを寄せた鈴木君の心が伝わってきました。これからも新聞に親しみ、さまざまな分野で頑張っている人の記事を読んでください。

(地域交流室)

ジュニア新聞では子どもたちの意見や質問、相談を受け付けています。〒9600-8602 福島市太田町一三ノ一七、福島民報社地域交流室「聞いてよ／伝次郎」係まで郵送するかファクス024(5331)4117、メールlife@minpo.ne.jpで寄せてください。

意見や質問 受け付け中

文章は四百字以内で、短い感想や質問も受け付けます。必ず住所、氏名(ふりがなも)、年齢、学校名、学年、電話番号を書いてください。採用の場合、伝次郎オリジナルグッズなどをプレゼントします。問い合わせは地域交流室 電話024(5331)4145へ。